

東京文化財ウィーク 2014

都主催の「東京文化財ウィーク」では、皆さんに文化財を身近に感じていただくため、都内全域で様々な文化財を公開しています。区では、毎年この事業に参加しており、今年は「浮世絵師たちの聖地 すみだ」と題した展示と史跡めぐりや、「すみだの職人」にスポットを当てた講演会と史跡めぐりを開催します。さらに昨年好評だった、

国登録文化財である「照田家住宅」と「割烹美家古」の特別公開も行います。過去から現在へと大切に受け継がれてきた文化財には、人々の想いや歴史が宿っています。「文化の秋」に、貴重な文化財の魅力に触れてみませんか。
【問合せ】生涯学習課文化財担当 ☎5608-6310

ガイドブックを配布しています
都内各地で行われる催しの詳細を掲載したガイドブックを、生涯学習課(区役所11階)、すみだ郷土文化資料館(向島2-3-5)などで配布しています。また、都教育委員会のホームページでも閲覧できます。

浮世絵師たちの聖地 すみだ

浮世絵が生まれ、広く庶民に愛された江戸時代には、葛飾北斎をはじめ、鳥居清長、喜多川 歌麿、歌川国芳など、現在も世界的に有名な絵師が次々と現れました。彼らは当時の役者や名所・風景を描いた作品を数多

く残しており、現在の私たちに江戸時代の息吹を伝えてくれています。彼らがこの世を去った後、それを悼んだ弟子たちは師の功績を永く後世に伝えていくため、神社や寺院の境内など人が多く訪れる名所に、師

を顕彰する石碑を建てました。区内には、浮世絵師たちの石碑がいくつも建てられており、すみだは「浮世絵師たちの聖地」といえます。今回は、浮世絵師たちの作品と石碑について紹介する「すみだゆかり

の展示」や、浮世絵師たちの石碑と石碑が建てられている名所を徒歩で巡る「史跡めぐり」を開催します。浮世絵師たちの作品や石碑、石碑が建てられた名所について学び、当時の様子に想いを馳せてみませんか。

すみだゆかりの展示「浮世絵師たちの聖地すみだ」

【とき】10月7日(火)～22日(水) 午前8時半～午後5時【ところ】区役所1階アトリウム【内容】浮世絵師のために建てられた石碑の解説と、その建立地に選ばれた名所の紹介【入場料】無料【申込み】期間中、直接会場へ

史跡めぐり「“浮世絵師たちの聖地すみだ”をめぐる」

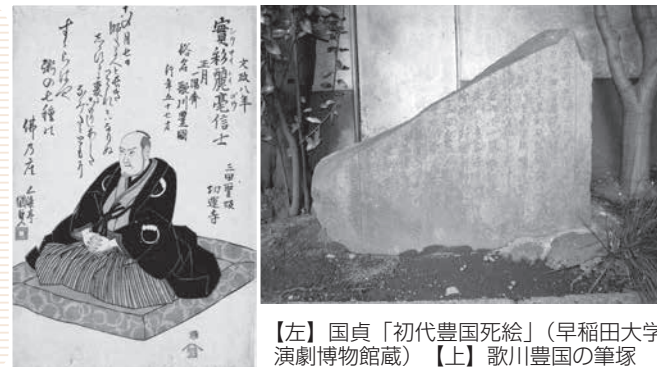
【とき】10月18日(土) 午前9時半～午後0時半 * 荒天中止【見学場所】法性寺、三囲神社、長命寺、法泉寺、向島百花園 * 全行程徒歩【対象】都内在住在勤の方【定員】30人(抽選)【費用】50円(保険料)【申込み】催し名・住所・氏名・年齢・電話番号を往復はがきで10月10日(必着)までに、〒130-8640生涯学習課文化財担当へ

すみだゆかりの展示・史跡めぐりで解説する内容の一部をご紹介します

初代歌川豊国の筆塚と法性寺

「柳島妙見」の名で親しまれている法性寺は、明応元年(1492年)に開かれたとされています。妙見大菩薩が降臨したという「影向の松」は有名で、法性寺を篤く信仰したという葛飾北斎もこの松を作品に描いています。法性寺の境内には、北斎と同時代に活

躍した初代歌川豊国の筆塚の断片があります。90人近くの弟子たちが建てたもので、豊国の経歴や功績が、山東京山の文で紹介されています。海外の浮世絵研究者も、この石碑が関東大震災で破損する前の写真を研究書で紹介するほど、この石碑は世界でも広く知られています。



【左】国貞「初代豊国死給」(早稲田大学演劇博物館蔵) 【上】歌川豊国の筆塚

北斎の兄弟子・勝川春英の碑と長命寺

長命寺には、江戸幕府3代將軍徳川家光がこの寺院の水で薬を服用したところ、たちまち癒えたことから、「長命寺」の寺号を与えたという伝承があります。また、「芭蕉雪見の寺」としても知られています。この長命寺には、北斎の兄弟子・勝川春英を記念する石碑があります。春英

の画風は歌川豊国や東洲斎 写楽などにも影響を与えたといわれ、碑文では「江戸絵(浮世絵)で春英の右に出るものはいない」と高く評価した者がいたり紹介されています。一方、奇抜な格好をして平気な顔で町を歩いたり、何日も家を空けて家族を戸惑わせたりといった逸話も刻まれています。



【左】芳富「山海度図会 国芳肖像」(東京国立博物館蔵) 【上】歌川国芳の碑

北斎を慕った歌川国芳の碑と三囲神社

三囲神社は江戸時代以前からの長い歴史を持つ神社ですが、元禄6年(1693年)の「其角の雨乞い」伝説以降、その名を広く知られるようになりました。境内には、幕末に活躍した浮世絵師・歌川国芳の石碑があり、豊国に弟子入りしてからの国芳の経歴と功

績が、弟子たちの思慕を込めて刻まれています。また、国芳は北斎を慕い、北斎の影響を受けたとされる作品も残しています。北斎の基本文献として知られる『葛飾北斎傳』(飯島虚心 著)には、国芳が北斎と談話したという記述があり、北斎ゆかりの絵師といえます。

すみだの手工芸と職人

江戸時代以降、すみだには様々な技術を持つ職人たちが多く住み、生業を営んできました。機械化により大量生産が可能となった現代にあっても、職人たちは代々継承されてきた技術をもって、今も優れた製品を作り続けています。

こうした職人たちの仕事への理解を深めていただくため、「すみだの手工芸と職人」をテーマに「講演会」と「史跡めぐり」を開催します。区登録無形文化財認定技術保持者にも認定されている方々をはじめとする職人たちの卓越した技術とその魅力に迫ります。



漆工 安宅 信太郎氏

講演会「すみだの手工芸“受け継がれてきた職人の技”」

【とき】11月15日(土)午後1時～3時【ところ】区役所会議室122(12階)【対象】都内在住在勤の方【定員】50人(抽選)【費用】無料【申込み】催し名・住所・氏名・年齢・電話番号を往復はがきで10月31日(必着)までに、〒130-8640生涯学習課文化財担当へ

講演会で解説する内容をご紹介します

仕事の種類と地域性との関係

区内には、寺社が多くお祭りが盛んなため神輿の錆金具を作る職人や、河川が多いことから水を大量に使う藍染や小紋染めなどの職人がいます。仕事の種類と地域の特徴を併せて見ていきます。



染織(江戸小紋) 五月女 利夫氏

製作技術の特徴

一つの製品が生み出されるまでには、手作業による様々な技術が用いられています。職種ごとに見られる熟練の技術、原材料、道具などについてご紹介します。

時代や生活の変化による影響

大量生産品の流通や生活様式の変化は、職人たちに大きな影響を与えました。時代変遷への対応や、技術を未来に受け継いでいくための課題について考えます。



金工(錆金具づくり) 塩澤カネ氏

竹細工(江戸和辛づくり) 奥平辰之氏

史跡めぐり「すみだの手工芸と職人」

【とき】11月29日(土)▶第1回=午前10時～正午▶第2回=午後1時～3時【見学場所】区登録無形文化財認定技術保持者である、藤澤幸宏氏(藍染「長板中形」と深井 しげ子氏(組み紐・紐結び)の工房【対象】都内在住在勤の方【定員】各回10人(抽選)【費用】50円(保険料)【申込み】催し名・希望回・住所・氏名・年齢・電話番号を往復はがきで10月31日(必着)までに、〒130-8640生涯学習課文化財担当へ

組み紐・紐結びとは

仏教伝来とともに大陸から伝わってきたもので、絹糸を編んで織り上げた紐です。用途に応じて様々な組み方があり、特に江戸時代には女性の帯締めや羽織の紐などにも利用され、色の

順序や柄に高度な工夫が施されるようになりました。戦後は洋装化による需要の減少、機械化や化学繊維の発達により純手組みの帯締めを組める職人の数は激減しました。



組み紐・紐結び 深井 しげ子氏



藍染(長板中形) 藤澤幸宏氏

国登録文化財を訪ねて

国登録文化財「照田家住宅」の特別公開

戦後の建築でありながら、明治時代以降に見られた近代和風住宅の様式にこだわった住宅建築をご覧ください。【とき】11月7日(金)▶第1回=午後1時～2時半▶第2回=午後3時～4時半 *いずれも現地

解説あり【対象】都内在住在勤の方【定員】各回10人(抽選)【費用】50円(保険料)【申込み】催し名・希望回・住所・氏名・年齢・電話番号を往復はがきで10月17日(必着)までに、〒130-8640生涯学習課文化財担当へ

国登録文化財「割烹美家古」の特別見学会

昭和初期の風情を今に伝える建物です。向島の料亭文化の雰囲気をお楽しみください。【とき】11月22日(土)▶第1回=午後1時半～2時半▶第2回=午後3時～4時 *いずれも現地解説あり【対象】都内在住在勤の方

【定員】各回20人(抽選)【費用】50円(保険料)【申込み】催し名・希望回・住所・氏名・年齢・電話番号を往復はがきで10月31日(必着)までに、〒130-8640生涯学習課文化財担当へ